

公益社団法人 日本水産学会
平成 30 年度第 5 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 30 年 9 月 15 日(土) 10 時 00 分～14 時 57 分
(昼休み 12 時 04 分～13 時 00 分)
- 2 開催された場所 広島大学東広島キャンパス生物生産学部 C308 (広島県東広島市鏡山 1-3-2)
- 3 理事総数及び定足数
総数 17 名, 定足数 9 名
- 4 出席理事総数 17 名
(本人出席) 岡崎恵美子, 家戸敬太郎(第 20 号議案「入会承認」審議後の 13 時 00 分に退席), 金子豊二, 黒倉寿, 越塩俊介, 佐藤秀一, 田中教幸, 東海正, 中田英昭, 萩原篤志, 日向野純也, 舞田正志, 安井肇, 横山芳博, 吉崎悟朗, 良永知義, 和田時夫
(監事出席) 杉田治男
(幹事出席) 岩田繁英, 遠藤雅人, 福島英登, 近藤秀裕(11 時 32 分から 12 時 04 分まで退席)
(オブザーバー) 南 卓志(平成 30 年度秋季大会委員長, 10 時 04 分に退席), 小梶 聡(理事候補者), 馬久地みゆき(理事候補者)

5 議 案

決議事項

- 第 1 号議案 「名誉会員推薦」の件
- 第 2 号議案 「職員就業規程及び臨時事務有期雇用職員就業規程の一部改正」の件
- 第 3 号議案 「プライバシーポリシーの一部改正」の件
- 第 4 号議案 「学会誌配布規程の一部改正」の件
- 第 5 号議案 「日本水産学会誌 85 巻における会員販売促進」の件
- 第 6 号議案 「Fisheries Science の新契約」の件
- 第 7 号議案 「韓国水産科学会との学術交流協定覚書」の件
- 第 8 号議案 「水産増産懇話会委員会委員の交代」の件
- 第 9 号議案 「平成 31 年度春季大会英語セッション導入」の件
- 第 10 号議案 「平成 32 年度秋季大会担当支部」の件
- 第 11 号議案 「会員名簿」の件
- 第 12 号議案 「ホームページリニューアル」の件
- 第 13 号議案 「電子書籍「e 水産学シリーズ(仮)」」の件
- 第 14 号議案 「水産学シリーズ 179 の韓国語翻訳出版」の件
- 第 15 号議案 「東日本大震災義援金」の件
- 第 16 号議案 「共催, 協賛及び後援」の件
- 第 17 号議案 「日本学会議主催公開シンポジウム実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出」の件
- 第 18 号議案 「日本学会議主催公開シンポジウム募金目論見書」の件
- 第 19 号議案 「第 17 回日本農学進歩賞受賞候補者推薦」の件
- 第 20 号議案 「入会承認」の件

報告事項 第 4 回理事会以降の職務執行の状況

その他確認事項

6 議事の経過及びその結果

(1) 平成 30 年度秋季大会実行委員長の挨拶

佐藤会長の挨拶の後、福山大学 南 卓志 大会実行委員長より挨拶があった。平成 30 年度の秋季大会は福山大学、広島大学、瀬戸内海区水産研究センターでの合同で準備・運営をしてきた。中国地方における豪雨等の影響により、事前登録した参加者は例年よりも少なく 4 百数十名であること、口頭発表、ポスター発表合わせて 270 題程度、シンポジウム 7 件が行われること、今大会で初めて実施した講演要旨のペーパーレス化に対する反応をまとめて今後の大会につなげていく予定であることを、大会委員長が報告した。

(2) 定数の確認等

佐藤会長が定足数の充足を確認し、続いて本会議の議事進行について説明があった。

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、佐藤会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「名誉会員推薦」の件

佐藤会長から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で塩見一雄会員を名誉会員として定款第 5 条第 5 項に基づき社員総会に推薦することを可決した。

第 2 号議案 「職員就業規程及び臨時雇務有期雇用職員就業規程の一部改正」の件 (別紙 1)

金子総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案を一部修正のうえ可決した。

第 3 号議案 「プライバシーポリシーの一部改正」の件 (別紙 2)

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 4 号議案 「学会誌配布規程の一部改正」の件 (別紙 3)

金子総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 5 号議案 「日本水産学会誌 85 巻における会員販売促進」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。本議案について次の質疑応答があった。

東海理事「ここ数年で、何名の会員が利用しており、販売や発送の手間はしないのか？」

金子理事「年間数名が利用している。販売や発送の手間はそれほどなく、在庫として残るよりも売れた方がよい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 6 号議案 「Fisheries Science の新契約」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。本議案に対して、以下の質疑応答があった。

越塩理事「電子ジャーナル購入に対する負担が大きいため、日本学会議が何らかの政策提言をする予定である。」

東海理事「Editorial Manager の利用に関してお金がとられないということでしょうか。」

金子理事「出版に関係するすべての費用は Springer がもつという認識でよい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 7 号議案 「韓国水産科学会との学術交流協定覚書」の件

萩原国際交流担当理事から、原案の説明があった。本議案に対して、以下の質疑応答があった。

東海理事「韓国水産科学会の会員が Fisheries Science 誌を閲覧可能にすることに対して、追加の経費はかからないということでしょうか。」

佐藤会長「追加の経費はかからない。」

良永理事「Springer の新契約に韓国水産科学会会員による Fisheries Science へのオンラインアクセスに関する承認

は得られているのか。日本水産学会誌はJ-STAGEでの公開だが問題ないのではないか。」

佐藤会長「特に問題はない。」

黒倉理事「他の国際学会でも同様の動きか。」

東海理事「相互アクセス化により引用率が増えるのであればよいことだ。もし、今後出版社が変わった時にどのようなようになるか。」

佐藤会長「その点については明確ではないので、萩原理事に一度検討をしてもらいたい。」

萩原理事「今回締結する覚書の内容変更は今からでは時間的に難しい。」

岡崎理事「交流が目的なのか、オンラインジャーナルに相互にアクセスすることが目的なのかどちらかわからない。」

萩原理事「韓国水産科学会の冊子体がなくなることによって電子ジャーナルの相互アクセス化への要望が韓国水産科学会からあり、対応を検討してきた。」

岡崎理事「交流を目的にするのであれば、水産学会の春季・秋季大会での英語発表を増やすことで交流を増やすこともできる。水産学会の春季・秋季大会の実施方法を考える方がオンラインジャーナルの相互アクセスに関する議論よりも先なのではないかと感じる。」

佐藤理事「そのようなことや他のことも随時進めていきたい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。なお、覚書ではなく本協定を結ぶときに改めて、詳細を検討することになった。

第8号議案「水産増産懇話会委員会委員の交代」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

[辞退] 益本俊郎 [選出] 高木基裕

[辞退] 川上高弘 [選出] 鈴木秀和

[辞退] 一色 正 [選出] 筒井直昭

第9号議案「平成31年度春季大会の英語セッション導入」の件

萩原国際交流担当理事から、原案の説明があった。本議案に対して、以下の質疑応答があった。

黒倉理事「平成31年度春季大会内容について議論をするのか。もしくは、今後の運営主体や英語セッションを続けていくのか。どちらについて議論を進めるのか。」

萩原理事「両方についてである。」

黒倉理事「平成31年度春季大会の英語セッションは実施できるように準備してもらえればよい。今後、英語セッションを実施する主体や運営方法は議論する必要がある。」

東海理事「平成31年度春季大会の英語セッションを実行する主体はどこになるのか。」

萩原理事「今回は国際交流委員会が主体で試行を行い、将来的には大会の実行委員会が実施するようになるよ」と考えている。」

東海理事「大幅に運営方法を変更することになるならば理事会の承認が必要である。参加費については大会規程によれば大会の運営委員会が決めることができることになっている。」

岡崎理事「シンポジウムのような形ではなく、一般のセッションの中で英語での講演も許可することもできるがその議論をしなくてよいのか。」

佐藤会長「今後については両者について議論していく必要がある。」

金子理事「今回の提案は試行を前提としている。平成31年度春季大会に実施するため今回できるだけのことを行い、継続的に実施することが難しそうであれば、次回以降は実施しないことも含め全体を再検討することも必要ではないか。」

和田理事「今回は試行して、終了後にセッションに関するレビューをしっかりと行うことで今後どうするかについては議論していけばよいのではないか」

審議の結果、平成31年度春季大会に英語セッションを実施することを出席理事全員一致で可決した。また、運営主体や運営方法は今後議論を進めていくこととした。

第10号議案「平成32年度秋季大会担当支部」の件

佐藤会長から、原案の説明があった。審議の結果、平成32年度秋季大会は北海道支部、平成33年度秋季大会は九州支部で実施することを出席理事全員一致で可決した。

第11号議案「会員名簿」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

黒倉理事「会員名簿のデータはあるのか。」

金子理事「会員名簿のデータはある。」

岡崎理事「名簿があることで水産学会に所属している事の意識が高まることも期待されるのでは。」

舞田理事「法人として名簿を作らなくてもよいのか。」

金子理事「会員配布用の冊子版の名簿は作らないが、会員名簿はデータベースとして事務局が管理している。」

審議の結果、会員配布用の冊子版の名簿は作成しないことを出席理事全員一致で可決した。

第12号議案「ホームページリニューアル」の件

吉崎企画広報担当理事から、原案の説明があった。本議案に対して、以下の質疑応答があった。

萩原理事「経費がかかることなので、リニューアルが必要となった理由についてお聞きしたい。」

吉崎理事「日本語のホームページが古いのではないかという意見が企画広報委員会からでていた。さらに、日本語と英語のデザインが異なっていること、日水誌へのリンクが煩雑であることを考慮し修正を検討している。」

東海理事「現行のシステムでは更新に手間がかかる。リニューアルによりホームページ更新に係る手間が減るため、進めた方がよい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第13号議案「電子書籍「e 水産学シリーズ(仮)」」の件

越塩出版担当理事から、原案の説明があった。本議案に対して、次の意見と質疑応答があった。

萩原理事「シンポジウム記録として発表された e 水産学シリーズ(仮)の中で優れた内容のものについては Fisheries Sciences に特集記事や Review Paper としての掲載することも検討してはどうか。」

佐藤会長「Fisheries Sciences に Review Paper として掲載することは編集委員会との議論で行ってほしい。」

東海理事「e 水産学シリーズ(仮)は日本語か。」

越塩理事「日本語で電子版として出版する。既刊の日本水産学シリーズの英語版も検討中だがこれとは別物である。」

吉崎理事「恒星社厚生閣は、経済性の問題で水産学シリーズの出版をしないという方向で話が進んでいたと認識していたが出版する方向で納得しているのか。」

越塩理事「出版社も納得した上で話が進んでいる。」

金子理事「日本語なのに“e”とついているのはおかしいのではないか。」

越塩理事「検討する。」

良永理事「この議案は、e 水産学シリーズ(仮)として出版する方向で進めることを承認する、ということではないか。」

越塩理事「e 水産学シリーズ(仮)として出版する方向で進めることを承認してほしい。」

東海理事「水産学会としては、監修になるのかどうかについても検討を進めてもらいたい。」

越塩理事「検討する。」

審議の結果、電子書籍「e 水産学シリーズ(仮)」を出版する方向で進めることを出席理事全員一致で可決した。

第14号議案「水産学シリーズ179の韓国語翻訳出版」の件

越塩出版担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第15号議案「東日本大震災義援金」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。本議案に対して、これまでの経緯について東海理事から補足説明があった。審議の結果、東日本大震災ふくしまこども寄附金に義援金を寄附することを出席理事全員一致で可決した。

第16号議案「共催、協賛及び後援」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の共催、協賛及び後援を可決した。

日本学術会議公開シンポジウム「2050年の水産資源を日本の食卓から考える」

主 催 日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

共 催 水産・海洋科学研究連絡協議会 他2団体(予定)

後 援 大日本水産会 他17団体(予定)

日 程 平成30年11月10日

場 所 日本学術会議講堂(東京都港区)

希 望 共催

負担金 なし

海洋調査技術学会創立30周年記念研究発表会

主 催 海洋調査技術学会

協 賛 海中海底工学フォーラム 他20学協会(予定)

日 程 平成30年11月28日・29日

場 所 東京海洋大学越中島会館大講堂(東京都江東区)

希 望 協賛

負担金 なし

真珠研究シンポジウム2018

主 催 真珠研究シンポジウム実行委員会

後 援 水産庁 他4団体(予定)

日 程 平成30年11月30日~12月1日

場 所 ミキモト真珠島真珠博物館ミュージアムホール(三重県鳥羽市)

希 望 後援

負担金 なし

日本学術会議公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2018」

主 催 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会

後 援 日本農学アカデミー 他12団体(予定)

日 程 平成30年12月21日

場 所 日本学術会議講堂(東京都港区)

希望 後援

負担金 なし

第17号議案「日本学術会議主催公開シンポジウム実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下とおり可決した。

委員長 竹内俊郎

副委員長 佐野元彦

委員 小島隆人、牧野光琢、吉崎悟朗

第18号議案「日本学術会議主催公開シンポジウム募金目録見書」の件

金子総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、原案を一部修正のうえ出席理事全員一致で可決した。

第19号議案「第17回日本農学進歩賞受賞候補者推薦」の件

萩原学会賞担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第20号議案「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

第4回理事会以降の職務執行の状況

・会長

佐藤会長より次の報告があった。

- 1) 水産学若手の会委員会が平成30年度春季大会にナイトセッションを開催し、同時に第1回委員会を開催した。平成30年10月には第2回の委員会を開催する予定である。平成30年秋季大会においてミニシンポジウム「中国・四国地方における水産研究のこれから」を開催した。
- 2) 水産・海洋科学研究連絡協議会の第1回会議が5月に開催され、第2回が10月末に介される予定で、次回の協議会では日本学術会議主催のシンポジウムについて協議する予定である。

・庶務関係

金子庶務担当理事より次の報告があった。

- 1) 資格喪失者(会費未納)のうち会費を納入した以下の者を退会へ変更した。

田村亮一(正会員,平成28年度資格喪失)

- 2) 平成31・32年度学会賞選考委員会委員選挙結果について報告があった。
- 3) 支部幹事の投票により会長指名理事候補者として次の2名が承諾された。

小梶 聡(マルハニチロ(株)中央研究所 所長)

高野みゆき(旧姓:馬久地)(水産研究・教育機構中央水産研究所 研究員)

承諾された理事候補者は平成31年の春季大会の社員総会で承認されることで正式に理事となる。

- 4) 内閣府公益認定等委員会による立ち入り検査(平成30年11月9日)が実施される。
- 5) 日本水産学会誌 会員への配布方法の変更について説明した。
- 6) 学会名の商標登録について、平成30年の12月に登録期限がきれるため弁理士と相談の上で更新・申請作業を実施する。ロゴマークの商標登録について、平成31年にきれるため随時更新・申請作業を実施する予定である。
- 7) 水産学進歩賞返還の具体的な手続について会員に対して通知する予定である。
- 8) 協賛及び後援について、以下の2件は共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ3)を適用した。

第62回海中海底工学フォーラム

主催 海中海底工学フォーラム運営委員会
協賛 日本船舶海洋工学会 他6団体
日時 平成30年10月19日
場所 東京大学大気海洋研究所講堂(千葉県柏市)
希望 協賛
負担金 なし

第18回基準油脂分析試験法セミナー

主催 日本油化学会
協賛 日本農芸化学会 他4学協会
日時 平成30年11月21日・22日
場所 油脂工業会館9階会議室(東京都中央区)
希望 協賛
負担金 なし

9) 内閣府公益認定等委員会による立入検査に先立ち、決算書類や事業報告書を理事会で承認していることが明確になるよう議事録に記載するようとの指摘を受けた。

・企画広報関係

吉崎担当理事より、平成30年7月6日に第5回企画広報委員会を開催したと報告があった。委員会では、ホームページリニューアルに関して、ワーキンググループを立ち上げて議論をすること、高校生によるポスター発表において受賞した学校に対して研究の紹介記事を書いてもらう予定であることが報告された。

・財務関係

萩原担当理事 特になし

・編集関係

東海担当理事より平成30年9月17日に第3回編集委員会を開催すると報告があった。委員会では、進歩賞の返還に伴う日本水産学会誌撤回論文についての会告を載せること、科研費国際情報発信強化事業に関する総説出版・編集に関することの2点が報告事項と挙げられている。また、審議事項として、出版倫理規定の追加、科研費国際情報発信強化事業の平成30年度のオープンアクセス論文の執筆者の追加および平成31年度以降の申請、論文賞選考を行う委員の分野担当、海外エディターの推薦募集について審議をする予定である。

・学会賞関係

萩原担当理事より平成30年9月15日の15時00分から学会賞委員会を開催すると報告があった。

・シンポジウム関係

横山担当理事より、平成30年3月27日に第1回シンポジウム企画委員会が開催された後メール会議を実施し、第3回の委員会を平成30年9月17日に開催すると報告があった。第3回の委員会までに平成31年度のシンポジウムに関する内容の確認・調整、シンポジウム企画提案書のひな形を作成し、承認を得た。また、平成30年9月17日の委員会では作成したひな形を水産学会のホームページ上にアップロードすることを審議する予定である。

・出版関係

越塩担当理事 特になし

・水産技術誌監修関係

日向野担当理事より、平成30年9月4日に第1回企画編集委員会が開催されたと報告があった。委員会では

平成30年の編集委員会の体制等、平成30年度の11巻1号の掲載論文と平成30年度の今後の企画についての協議を実施した。平成30年度の水産技術誌編集事務局の支援業務を(一社)全国水産技術者協会に外部委託することとなった。平成30年度の11巻1号掲載論文は原著論文2報、短報2報、資料1報、再審議になった短報1報の計6編について掲載を予定しており、査読結果を反映させた原稿を待っている状態でありこれらを11巻1号の掲載論文とする予定である。現在査読中の2報については受理審査に回せないとして再投稿を勧めることとした。

・国際交流関係

和田担当理事より、平成30年9月16日に国際交流委員会を開催し、韓国水産科学会との学术交流協定覚書および平成31年度春季大会の英語セッションについて具体的にどのように議論する旨の報告があった。また、佐藤会長より、7/9からノーリッジで開催されたイギリス諸島水産学会に出席したこと、アメリカ水産学会との学术交流協定を平成30年8月20日からアトランティックシティで開催されたアメリカ水産学会の大会で締結してきたとの報告があった。

・水産教育関係

良永担当理事より、平成30年9月17日に水産教育推進委員会を開催するとの報告があった。

・水産政策関係

黒倉担当理事から、平成30年9月16日に水産政策委員会を開催すると報告があった。水産政策委員会では、水産庁の打ち出した水産政策の改革に対する本学会としての意見をだせるように検討しており、原案は2か月程度でまとめることができる。12月の理事会で再度議論できるようにたたき台を作成する予定である。

本報告に対して次の意見交換があった。

金子理事「議論をする際には、事前に資料をだしてもらいたい。」

黒倉理事「2か月ほどでまとめる予定であるのであらかじめメールで流す。」

・漁業・資源管理関係

東海担当理事より、平成30年15日12時00分から13時00分に漁業懇話会委員会を開催したと報告があった。委員会では、平成31年度春季大会中に実施する第71回の漁業懇話会講演会の講演内容と奨励賞について議論をした。講演会では、午前は太平洋クロマグロの管理について、また午後は定置網でクロマグロを逃がす技術の実証化について取り上げることが決まった。

・水産利用関係

岡崎担当理事より、第2回の懇話会を11月から12月に実施する方向で検討しているとの報告があった。

・水産増殖関係

越塩担当理事より、平成30年9月15日13時から講演会「瀬戸内の魚類養殖のホットスポット」を開催していると報告があった。

・水圏環境関係

萩原担当理事より、委員会が平成30年9月15日12時から13時まで開催したと報告があった。委員会として、平成30年9月15日13時からシンポジウム「増養殖環境における生物-環境間の相互作用とその有効利用～複合養殖の現場から探る実態とこれからの可能性～」を開催していることを報告した。また、平成31年度の春季大会においてシンポジウム「防潮堤が沿岸生態系に与える影響」と第35回沿岸環境学連学会連絡協議会についても審議をしている。

・男女共同参画関係

岡崎担当理事より、平成30年9月17日に男女共同参画推進委員会を開催する予定であると報告があった。男女共同参画事業に関する学協会の連絡会に委員会から3名が出席する予定である。2016年10月に実施した第4

回大規模調査に関連して、全国版に対応するものを作成する予定である。

・社会連携関係

安井担当理事より、失敗例を含めた社会連携の事例を抽出して、ホームページで紹介をしていく予定であると報告があった。

・将来計画関係

和田担当理事より、平成30年度春季大会で開催した理事会主催シンポジウムを日本水産学会誌に掲載するシンポジウム記録としてまとめていると報告があった。

・北海道支部、地域連携関係

安井担当理事より、平成30年支部会を11月23・24日に開催すると報告があった。詳細はホームページで公開しており、支部会では一般研究発表、若手の会および公開シンポジウム「環境変動を考慮した北海道の水産増殖の展望」を開催する予定である。

・東北支部、地域連携関係

田中担当理事より、平成30年度日本水産学会東北支部大会を開催すると報告があった。

・関東支部、地域連携関係

舞田担当理事 特になし

・中部支部、地域連携関係

横山担当理事より、平成30年11月15日に支部会を新潟のガレツソホールで開催する予定であり、詳細はホームページで公開していると報告があった。また、平成31年秋季大会は福井県立大学にて開催する予定で、参加を求めた。

・近畿支部、地域連携関係

佐藤会長より、平成30年12月8日に支部会を開催する予定であると報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

日向野担当理事から、平成30年度秋季大会開催における支援のお礼と本大会では予算が若干不足になる可能性があるためトヨ一企画からの人の派遣をとり止めにすることで節約をしたとの報告があった。また、平成30年9月15日11時から支部幹事会が開催された。

・九州支部、地域連携関係

越嶺担当理事より、12月8・9日に幹事会、支部総会、一般研究発表及び支部例会を鹿児島大学水産学部にて開催すると報告があった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

吉崎担当理事より、3つの企画が出版済みで現在新しい企画を検討中であるとの報告があった。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

黒倉担当理事より、福島復興についての企画を議論しているとの報告があった。

・日本水産学会創立85周年記念事業委員会（特別委員会）

和田担当理事より、日本水産学会誌特別号として85年史の取りまとめが印刷に進んでいると報告があった。

・財務検討委員会（特別委員会）

萩原担当理事より、会員減少について検討しているとの報告があった。

その他確認事項

(1) 次回の理事会について

佐藤会長より、平成30年度第6回理事会を平成30年12月1日13時より東京海洋大学品川キャンパスで開催すると説明があった。

- (2) 平成 31 年度秋季大会の講演要旨集をペーパーレス化したことに関して以下の発言があった。
- 杉田監事「講演要旨集をペーパーレス化したけど、データを学会 HP などに残すことは考えているのか。」
- 金子理事「電子情報として残すことを考えている。」
- 日向野理事「今回は講演要旨の公開は 12 日の予定であったが 13 日に公開になった。」
- (3) 越塩理事より次の 3 つの国際会議について案内があった。
- 平成 30 年 11 月 4 - 8 日 沿岸域の環境マネジメントに関する会議 (タイ)
- 平成 30 年 12 月 3 - 6 日 養殖に関する会議 (バンコク)
- 平成 31 年 4 月 8 - 12 日 アジア水産学会 (フィリピン)

以上をもって議案の審議等を終了したので、13 時 57 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長 (代表理事) 及び監事は記名押印する。

平成 30 年 9 月 15 日

公益社団法人 日本水産学会
議長 会長 (代表理事)

監 事